

第46回日本顔面神経学会

会 長 萩森 伸一（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 専門教授）
事務局長 綾仁 悠介（耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 講師(准)）

第46回日本顔面神経学会を、令和5年6月2日(金)、3日(土)の両日、大阪・豊中市の千里ライフサイエンスセンターにて現地開催いたしました。

日本顔面神経学会の前身、日本顔面神経研究会の第1回大会が開催されたのは昭和53年、1978年のことです。2014年には日本顔面神経研究会から日本顔面神経学会へと名称・組織が変更になり、より学際色豊かな学会へと発展しています。本学会は耳鼻咽喉科以外に形成外科、リハビリテーション科、脳神経外科、麻酔科、脳神経内科などの多くの診療科が関わり、また会員も医師以外に療法士、臨床検査技師、看護師、鍼灸師など多職種によって構成されています。

今回のテーマは「すべては笑顔のために」といたしました。先述のように顔面神経麻痺診療に

は多くの診療科、多職種が関わりますので、それぞれとの連携が欠かせません。時に意見の違いや専門分野の重なりなど、診療が円滑に回らないこともあることかと思えます。しかし顔面神経麻痺の患者は年間発症5万人、そのうち1万人が治癒せず後遺症に生涯悩んでいます。患者の不安や悩みを少しでも軽くし、再び笑顔が戻るよう皆が一丸となって診療に取り組んでいきたい、そのような気持ちをこのテーマに込めました。

プログラムは2つのシンポジウム、4つのパネルディスカッション、2つの教育セミナーに加え、オンラインでの特別講演、日韓合同シンポジウム、ハンズオンセミナー、指定演題、そして手術アドバイスコーナーを設けました。また会員からは76題の一般演題をいただきました。

特別講演では米国の高名な作業療法士、Ms. Jacqueline Diels先生に“Neuromuscular Retraining for Facial Palsy; State of the Art”のタイトルで、オンラインでご講演いただきました。最新のリハビリテーションの知見は目から鱗が落ちる内容で、医師のみならずコメディカルの先生方も熱心に聴講・質問されていたのが印象的でした。パネルディスカッション「顔面神経減荷術を知り尽くす!」は、3年ぶりの耳鼻咽喉科主催の本学会ということもあり、減荷術に焦点を当てベテランの術者による手術のコツの解説や減荷術の問題点、将来展望などじっくり討論しました。そしてシンポジウム「治らなかった麻痺を治す!」では、麻痺患者の心理状態の解析、非治癒例に対する形成外科の手術、ボツリヌス治療、メイクアップによる患者の社会参画支援などが解説されました。今まで顔面神経麻痺診療は急性期の治療が中心で、後遺症の診療はどちらかといえば後回しにされてきまし

46th Annual Meeting of the Japan Society of Facial Nerve Research
第46回日本顔面神経学会

すべては笑顔のために

会期 2023年6月2日(金)〜3日(土)
第13回顔面神経麻痺リハビリテーション技術講習会 6月1日(木)午後開催

会場 千里ライフサイエンスセンター
〒560-0082 大阪府豊中市新千里東町1-4-2

会長 萩森伸一 大阪医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

高橋 2023年 第32回日本聴神経腫瘍研究会
6月3日 会長: 羽藤 亘人 慶応大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

Official Site: <https://plaza.umin.ac.jp/fnr46th/> ■ 演題募集期間: 2022年12月4日〜2023年2月5日

学会事務局 大阪医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 〒569-8686 大阪府東淀川区大田町2番7号
TEL: 072-683-1221 (代) FAX: 072-684-6539 E-Mail: fnr46@emsy.jp

学会ポスター

た。しかし治らなかった麻痺や後遺症を治療してこそ顔面神経麻痺診療は完結すると言えます。このシンポが後遺症治療のさらなる進歩と普及に繋がることを切に願っています。

学会の隠れた目玉は、「あなたの手術、アドバイスします」という手術アドバイスコーナーを設けたことでした。これは若手の術者を育てる観点から、若い先生自らが執刀した手術の動画をエキスパートの先生方と供覧し、いろいろアドバイスを受けるという個人レッスンです。耳鼻咽喉科関連の学会でも初めての試みですので受講希望者を集めるのに苦労いたしましたが、会場での議論は周囲の先生方も巻き込んで白熱し、受講者・チューター役どちらからも大変好評であり、胸を撫で下ろしております。また10年ぶりに設けた顔面神経筋電図検査のハンズオンセミナーは、当初12名の受講者枠は応募開始後わずか2日間で定員に達し、急遽20名に拡大しましたが、こちらもあっという間に埋まってしまいました。当日は受講者に加え見学希望者が60名ほど集まり、大人気のセミナーになりました。このセミナーには本学リハビリテーション医学教室の仲野春樹先生や中央検査部の臨床検

査技師の方々に講師役として大変お世話になりました。

今回も昨年と同様、第32回日本聴神経腫瘍研究会(会長 羽藤直人先生(愛媛大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科 教授)との合同開催でした。本学会への参加者は350名強、そのうち聴神経研究会との合同参加が70名と、合同開催のメリットは大きかったと思います。台風2号に伴う大雨や強風の影響で一部参加者が来阪できなかったことや、万博記念公園や箕面の大滝など会場周辺の観光を楽しんでいただけなかったことが残念ではありますが、その代わり会場には多くの先生方が留まり、face to faceで熱く議論されている姿をみて、本学会を主催した大きな喜びを感じた次第です。

本学会を成功裏に終えることができましたのも教室員のみならず、本学脳神経外科、リハビリテーション科、形成外科の先生方、病院中央検査部の方々のご支援のお陰であります。この場を借りて御礼申し上げます。また学会を助成していただきました大阪医科薬科大学医師会に心より御礼申し上げます。有り難うございました。



教室員・スタッフ集合写真

第58回日本小児腎臓病学会・学術集会

会 長 芦田 明 (小児科学教室 教授)
事務局長 松村 英樹 (小児科学教室 講師)

2023年6月29日(木)から7月1日(土)の3日間、高槻市にある高槻城公園芸術文化劇場において第58回日本小児腎臓病学会・学術集会を開催いたしました。日本小児腎臓病学会は、小児科医の中で腎臓病を専門とする医師を中心に1100名ほどの会員を有する学会です。今回は、COVID-19が2類相当から5類感染症へと指定が引き下げられたことから、Web配信ではなく、対面での完全現地開催で開催することが出来ました。このような形で本学会・学術集会が開催されるのは、2019年以来4年ぶりのことです。梅雨時期ではありましたが、小雨程度で特に大きな天候の崩れもなく、全国から500名を超える先生方にご参加いただきました。

今回の学術集会のテーマは、「Serendipity～一つ一つの出会いを大切に～」といたしました。一人一人の患児(子どもたち)との出会い、師との出会い、ともに医療を行う仲間との出会い、自分に続く後輩との出会いなど、人と人と

の出会いばかりでなく、新しい知識との出会い、気づきとの出会い、気づきを証明するための検証立案との出会い、検証結果との出会い、検証結果から生まれる新たな疑問や仮説などとの出会いなど、さまざまな出会いが医師をClinician Scientistとして育て、医療を進歩させてきたのだと思います。今回の学術集会に参加された先生方にとって、様々な仲間、新たな知識、新たな発見との出会いの場、機会となってくれればと思い、学術集会を企画・運営いたしました。

特別講演では、私の小児腎臓領域の師匠の一人であり、本学卒業生でもある東京女子医科大学腎臓病総合医療センター腎臓小児科教授の服部元史先生に「巣状分節性糸球体硬化症(FSGS)の臨床」と題して講演いただきました。小児腎疾患における難病としての巣状分節性糸球体硬化症を克服したいという先生の非常な熱意が伝わる講演でした。

教育講演として、兵庫県立こども病院臨床遺



集合写真

伝科の森貞直哉先生に「遺伝性腎疾患の診断と遺伝カウンセリング」、高知大学医学部小児思春期医学の藤枝幹也先生に「免疫抑制下における感染制御～腎移植におけるウイルス感染管理を中心に～」、群馬大学大学院医学系研究科医療の質・安全学講座の小松康宏先生に「腎代替療法選択における Shared decision making (SDM)」、大阪国際感染症研究センターの山本倫久先生に「予防接種の光と影」、神奈川県立こども医療センター救急集中治療科の永淵弘之先生と東京女子医科大学臨床工学部の相馬泉先生に「血液透析における体格を考慮した安全性の担保」、日本医科大学小児科の柳原剛先生に「3歳時検尿・学校検尿の取り組み」の6講演を企画し、すべて日本小児科学会の専門研修単位に認定していただきました。どの講演会場も立ち見が出るほどの好評でした。

また、医療の進歩に伴い小児期発症の疾患予後が改善し、多くの小児患者が成人にまで達するようになった現在、移行期医療も含めた成人診療科との連携が非常に重要となっています。そこで今回の学術集会では、「小児腎臓病学会員へのメッセージ」という大テーマの下、大阪公立大学医学部附属病院人工腎部教授で日本透析医学会理事長の武本佳昭先生、京都大学大学院医学研究科腎臓内科学教授の柳田素子先生、大阪大学大学院医学系研究科腎臓内科学

教授の猪阪善隆先生、東京大学大学院医学系研究科腎臓・内分泌内科教授であり日本腎臓学会理事長、国際腎臓学会理事長の南学正臣先生に、各先生方の小児腎臓科医に対する思いやメッセージをご講演いただきました。腎臓内科の御高名な諸先生にご講演いただいたことで、小児腎臓病学会員、特に若手の学会員に、成人診療科医師の思いと成人診療科との連携の重要性が伝わったものと思います。

その他、シンポジウム、ワークショップで、また200演題を越える登録をいただいた一般演題で、face to faceでの質疑応答のすばらしさを再認識する学術集会となりました。

今回の学術集会では、会員懇親会も学会場において行い、150名を超える先生方に参加いただきました。久しぶりの対面での懇親会であり、非常に和気あいあいと、会話が弾む懇親会でした。参加された先生方からは「とても良い学会で、懇親会も楽しかった。」との感想もいただきました。

このように盛会裏に第58回日本小児腎臓病学会・学術集会を終えることが出来たのも、助成をいただきました大阪医科薬科大学医師会の先生方のご協力のおかげと感謝いたしております。本当にありがとうございました。心より御礼申し上げます。



特別企画集合写真